

とんぐい村の こみ・すく通信

令和2年2月17日発行 第16号
更別村コミュニティ・スクール委員会

みんなの学校応援団 の活動を紹介<その12>

「ふるさと館で昔の生活の学習」

2月14日。更別小学校の3年生24名が、ふるさと館の展示物を見て、昔の生活について学ぶ学習に取り組みました。



ふるさと館には昭和初期からの農機具や生活用品が展示されています。そこに応援団として登場したのは勢雄区の佐藤光一さん。ひとつひとつどのように使ったものか説明してくださいました。



皿秤の使い方を説明する佐藤さん

子どもたちからは、「いつ頃使われたものですか？」など、たくさんの質問が出ていました。

「昔は車なんてなかったから、めったに町に出ることもできない。この『煎餅焼き』で

焼いた煎餅は、今の『かっぱえびせん』よりずっとおいしかった」と懐かしそうに話す佐藤さんの子ども時代に思いをはせ、子どもたちは、熱心にメモを取っていました。



自前のアンテナ指し棒まで用意してくださいました

「茶道体験」

同日。農村環境改善センターでは、茶道サークルの協力をいただき、更別小学校5年生と上更別小学校5・6年生が「茶道体験」に取り組みました。

学校教育では、教育基本法の「教育の目的」の中で「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」とされており、日本文化に触れ、学ぶ機会を大切にしています。



サークルの皆さんは、前日から会場づくりなど入念な準備をしてくださいました。

子どもたちは緊張の中にも、一人一人にたてていただいたお茶とお菓子を味わい、日本古来の、相手を思いやる「おもてなし」の心や、お茶をたてたりいただいたりするときの美しく無駄のない所作、詫び・寂びの精神を学んでいました。

おいしかった？